

## 主体的な学びをつくる国語科授業の実際

～読解力、思考力、表現力の育成をめざして～

渡 邊 早 苗\*

(平成29年1月26日受理)

【要 旨】 本研究では、中学校国語科における主体的な学びをめざし、読解力、思考力、表現力の育成に有効な学習活動を検討し、授業実践を行ってきた。11年間におよび実践研究を通して、子どもたちが、自らの学習活動に粘り強く取り組み、読解力、思考力、表現力を着実に身に付け、その学びの成果を実感することで、自らすすんで学び続けようとする主体的な社会人の育成を試みた。

### I はじめに

今年（2016年）8月に出された中央教育審議会教育課程部会国語ワーキンググループによる審議のとりまとめには、国語科で培った能力を基本として各教科等における言語事項の充実を推進したことによって、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）（2012年）」の読解力の平均得点が比較可能な調査会以降、最も高くなっている等の成果が示されている。

今から20年前（1996年）、基礎・基本を徹底し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの「生きる力」の育成が提言され、その知的側面である「確かな学力」の育成を図ろうとする考え方が2002年「学びのすすめ」アピールにも示された。その背景には、2000年のPISA調査結果により学習意欲や学習習慣、そして「PISA型読解力」が不十分と指摘されたからであろう。各学校においても、この「確かな学力」「基礎・基本」「読解力」が喫緊の課題として取り上げられ、目の前の子どもたちにいかに力をつけていくか論議し、「生きる力」、そして「確かな学力」の定着をめざし取り組んでいたはずである。稿者の中学校においても、生徒が自分で選択した進路に向かって夢実現できるよう、また、これからの時代を逞しく、そして他者と協働して生きていける力を身に付けさせたいと強く願い、毎日の授業実践に臨んできた。しかし、現実には、教師は目の前の入試対策を迫られ、生徒にとってはいわゆる「やらされる勉強」になっていたのではないか。自ら学ぶ（学び続ける）意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ることが果たしてできているのか。本稿は、中学校国語科教師であった自分に問い直し、生徒が粘り強く学びに向かい、学習後も新たな学びにつなげていく、そのような主体的な学びをつくる授業をめざした11年間の実践研究の報告である。

---

\*わたなべさなえ 大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻

## Ⅱ 実践研究の概要

### 1 研究の背景（課題）

当時、中学校教員として勤務していた竹田市においても、各学校では「確かな学力を定着させる」ことについて研究をすすめていた。稿者にとっては、国語科教員として、果たして目の前の生徒たちに国語科で身に付けるべき力をしっかりつけているのか、「つけたつもり」になってはいないか、と内省すべき時期でもあった。また、総合的な学習の時間が導入され、学校の全ての教育活動について、「この活動で、生徒に何の力をつけているのか」確認し、見直し改善すべき時期でもあった。

稿者が勤めていた竹田中学校を始め竹田市の全中学校（当時は8校、現在は6校）では、現在同様毎朝8：00～8：20の間、朝学習を実施していた。生徒の登校は8：00で、それから20分間、1，2年生は読書活動，3年生は受験対策のため5教科のプリント学習等に取り組んでいた。教師はその間、朝の打ち合わせ（職朝）をしていた為、生徒たちだけで読書やプリント学習を実施する。他市での勤務時も同様であった為、長い間疑問も持たず実施してきた。朝読書は、落ち着いて1日をスタートさせるために有効である。しかし、3年生が毎朝行うプリント学習は、雑な取り組みだと感じていた。各自で解き、答え合わせを行い、やり直して提出し、教員は、それにざっと目を通しスタンプを押印して返却。いざ実力テストを実施してみると読み取れない生徒の多いことに愕然とした。それは、国語科だけに限ったことではなく、5教科とも課題は「読み取る力（読解力）」だと担当教師は口を揃えて言った。（ただし、「読み取る力」は語彙が足りないためか、読み取っていないのか、読み取っているのに表現できていないのか、曖昧）。小学1年からの8年間で付けた「読む」力では高校受験に通用しないのか。国語科の指導不足なのか。また、慣例のように続けていた朝学習についてこのままでよいのか、ディスカッションさせるわけでもない今のプリント学習ならば、各自が家で取り組めることではないか、早朝から学級の全員で行う必要があるのかということも、国語の授業の見直しと同時に感じていたことである。そこで、この時間を「読み取る力（読解力）」をつける時間として活用し、やらされる学習ではなく、自ら進んで学び、考え、次の学びにつなげていけるような学習活動を仕組み、生徒自身が、身につけた力を各教科や実生活につなげていけるものになりたいと考えた。

### 2 生活と学習をつなぐ実践 ～「新聞コラム」の読み取りを通して～

#### 1) 研究の目的

2000年4月。竹田中学校で1，2年と持ち上がった学年がいよいよ3年生になった時、稿者は、生徒とその保護者に「プリント学習の前に読解力こそ必要です。読解力をつけるために3年生になっても、朝学習は（1，2年時と同じ）読書を継続します」と伝えた。保護者も生徒も信頼してその提案を承諾してくれた。しかし、思うように読解の力は伸びず、3年2学期の途中ともなると生徒たちから「先生、朝学習を読書ではなくプリント学習にしてください」と声が上がった。読書活動は大変有意義ではあるが、好きな本を自分のペースで読んでいても「入試に立ち向かえる読解力」ましてや、「生活に結びつく読解力」はつかないということによりやく気づいた。即、入試対策のプリント学習を始めた（信頼してくれていた生徒や保護者には、申し訳なかったのだが）。このような失敗もあり、「今度こそ、受け持ちの生徒が3年生になっ

た時には、中学3年生にふさわしい、中学3年だからこそできる読解力をつける活動をしたい」と考え、試行錯誤していた。

## 2) 研究の内容

2003年4月。再び1, 2, 3年と順に持ち上がることができ、生徒たちの義務教育の最後の1年間を担当することとなった。近隣の中学校と統合し新たな気持ちでスタートした3年生3クラスを対象に、朝学習の時間は「新聞コラムの読み取り」を開始した。毎朝A4版1枚(図1)の学習プリントを作成し、取り組ませた内容は以下の通りである。

○話し合わずに順を守ってやる (①読む②印象に残ったところに波線 ③主題に赤線 ④タイトルをつける ⑤難読漢字を読む ⑥意味調べ ⑦感想・反論を110字にまとめる)

○20分間でできるところまでやって提出(最後まで終わらなくてよい)

○人と競争するのではなく自分のペースでやる

また、この学習は以下の3つの観点から、生徒にとって適切であると判断した。

① 内容「新聞コラム」・・・文章が短く、題材が多岐にわたり、筆力のあるベテランの記者が書くコラムは、大変おもしろく、価値のあるものだと考えた。コラムの特徴について、「コラムはしばしば複数の異質な話材をとりあげ、かかわらせてユニークな論を作る。ただし、この異質性と共に共通性を含むものでなければならない。共通性を踏まえての差異という『対立』の構造は、意味作用を生み出す母体である。コラムからこのような思考方法を学ばせ、共通性・類似性、再生、対立性を捉える観点から情報を選択して組み合わせ、読み手を納得させる文章を作らせる学習をさせたい」(小田;2016)とある。

② 方法「学習活動①～⑦の順で」「A4版1枚(スタートした頃はB5サイズ1枚)」「20分間」・・・何をやればよいか明確だったこと、また、意味調べやタイトルを付けたりなど、苦手な生徒にも抵抗なくできる活動があったことも効果的であった。また、学習活動、分量、時間が毎朝同じということで、生徒たちに定着しやすく、無言で集中してやることにつながった。さらに、活動が明確なので、相談室登校の生徒や発達障害の生徒も、意欲的に学習に取り組んでいた。開始した日に「先生、意味調べをしたいけど、漢字が読めないから国語辞典がひけない」とこっそり教えてくれた国語の学習が苦手な生徒がいた。3年生になり、みんなと一斉に取り組む活動に対してせつかくやる気を出していただろうに、そんなことにも気づいてやれていなかったと反省し、翌日より全員が意味調べをできるよう、調べさせたい語をあらかじめ選び書いておき(漢和辞典の使用はこの時間のねらいではないため)、必ずふりがなをふることにした。その生徒の発言のおかげで、どんなに読むことや書くことが苦手であっても、生徒は「学びたい」「わかりたい」と思っていることを痛感した。その後、彼自身もできることを実感し、粘り強く取り組んでいった。認知心理学者の研究では、「学習過程を強調し、努力をほめ、生徒の個人的な進歩に焦点をあて、(略)個々の生徒が挑戦できるよう工夫したり、他者と比べてどのくらいできるかではなく、自分がどのくらい進歩したかによって評価したり」することによって生徒の動機づけが高まったという報告がある。(J・T・ブルーアー;1997)

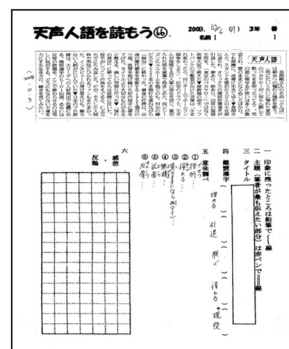


図1 学習の手引き(朝学習)

③ 教材「毎日ちがう話題（内容）」・・・教材は、稿者が購読している朝日新聞「天声人語」がもっとも多かったが、毎日新聞「余録」、大分合同新聞「東西南北」、読売新聞「編集委員」等、生徒たちに読ませたいものを選択し読ませていた。その日のものでなくとも、活用した。時にはコラムではない新聞記事も準備した。その選択基準は、①中学生に読ませたいもの（自然、人権、平和、環境、命、政治等に関するもの）②生徒たちが知っていそうで実は知らないこと③タイムリーなもの等である。しかし、生徒の感性を揺さぶるであろうものであれば、古いものも教材として使った。稿者が活用した新聞コラムで最も古いものは、1993. 4. 7の「天声人語（朝日新聞）」（以下）である。（当時の天声人語には改行を表す▼印はまだないが、ここでは改行を▼で示す）

【作家の矢崎節夫さんは学生のころ、こういう詩に接して、激しい衝撃を受けた。「朝焼け小焼けだ／大漁だ／大羽鯛の／大漁だ。／浜は祭りの／やうだけど／海のなかでは／何万の／鯛のとむらひ／するだらう。」▼金子みすゞという人の「大漁」と題する詩である。「人間中心の自分の目の位置をひっくり返される、深い、優しい、鮮烈さだった。」それから矢崎さんは、この詩人について知りたいと調べ始める。何せ、他の作品がなかなか見つからなかった。▼このほど出版された『童謡詩人金子みすゞの生涯』に、調べてわかった事実が詳しく記されている（略）▼今から90年前に生まれた人だ。20歳の頃、童謡を書いて雑誌に投稿し始め、西条八十に認められた。結婚もし、子どもももうけたが、26歳で死ぬ。ずいぶん短い時間に心あたたまる詩をたくさん書いたものだ。▼「土」という題の詩（略）▼無用と見られようと、無名であろうとその存在、その生命の尊さはゆるぎもない、という思い。やさしいだけではなく、つよい詩なのだ。新学期にふさわしい「私と小鳥と鈴と」▼「私が両手をひろげても、／お空はちつとも飛べないが、／飛べる小鳥は私のやうに、／地面を速くは走れない。／私がかからだをゆすつても、／きれいな音は出ないけど、／あの鳴る鈴は私のやうに／たくさんな唄は知らないよ。／鈴と 小鳥と、それから私、みんなちがつて、みんないい。」】

上記コラムを朝学習で読んだ中学3年生に、暫く経って下記の間で実力テストを実施したり、ディスカッションしたりした。

「大漁」と次の詩「積もった雪」を提示。上の雪／さむかろな。／つめたい月がさして。／下の雪／重かろな。／何百人のせていて。／中の雪／さみしかろな。空も地面もみえないで。

問題：2つの詩は同じ作者の作品である。2つの詩に共通している作者の見方・感じ方について、各自の感想を160字以上200字以内で記せ。（句読点も1字として数える。）

これは、1985年度東京大学文理共通問題第二問（齋藤孝『「東大国語」入試問題で鍛える！ 齋藤孝の読むチカラ』宝島社、2004）であるが、中3の生徒であっても概ね自分の考えを答えることができる。普段から、やや難解な文を読み、それについて自分の考えを書き綴っているからである。

また、毎年必ず読ませるものもある。新聞コラムは、豊かな人間性の形成に資するものや、日本語の美しさ、心地よさを味わわせてくれるものも大変多く、言語生活を豊かにしてくれるものとして、積極的に活用した。

### 3) 生徒の変容

開始時には難しいと思われたコラムを、生徒たち毎朝真剣に読み、感想や反論を書いている

のだから、稿者も3クラス（2003年度竹田中3年生）全員の学習プリントを毎日じっくり読み、注意深くその生徒の良さや成長に気付こうとした。決してサインや押印だけで返すことはせず、学習プリントにいくつも大きな丸を付け（誤字脱字等は、小さく表記）、必ず誉めたり認めたりするコメントを朱書きし返却した。もちろん最初は感想まで書けない生徒もいたし、タイトルがつけられず空欄の生徒もいた。苦手が多い生徒や、感想を書き

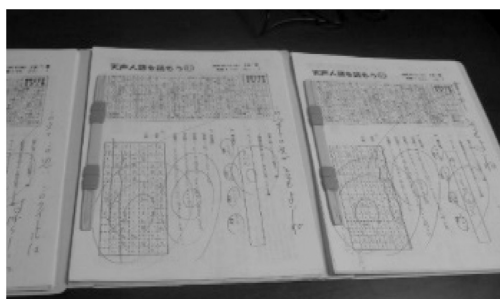


図2 廊下に掲示したファイル

始めるのに時間のかかる生徒等、その子の学習の様子（頑張りやつまづき等）や生徒なりの変容が、学習プリントからよく伝わってきた。また、「感想は必ず最後の行まで書こう」「人と違ったタイトルをつけよう」など、自分なりの目標をもって取り組んでいた生徒もいた。感想・反論は一人として同じものではなく、それぞれの思いや考えが出ているため、稿者は、生徒との対話を楽しむかのように毎日コメントを書き続けた。それを生徒はファイルに綴じ、1年間の朝学習が終わるとA4版（2003年度～2007年度はB5版）の学習プリントを百数十枚綴じた自分だけのファイルができあがる。定期的に（年によっては常時）廊下やホールにファイルを掲示（図2）しておき自由に誰にでも見てもらうことで、友達の考えを知ったり、うまい友達の「書き方」をまねたり、後輩たちに「3年生になったら自分たちもこの学習をするんだ」と意識付けをしたりすることもできた。

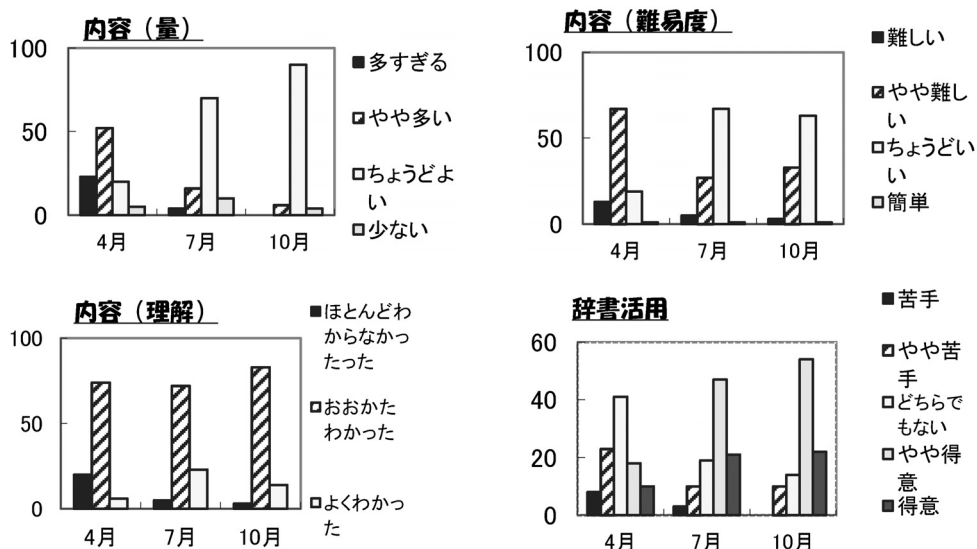
稿者が竹田中学校3年生対象に行った意識調査（2003年度）からは、多くの生徒が以下生徒A、Bのように4月から7月の間にかけて、すでに内容（量・質・理解）に対する意識が変容していることがわかる。また、7月から10月の間に苦手意識がなくなり、主体的に取り組む（下線部）ようになってきていることもわかってきた。

○毎朝続けてみて、変わったと思うこと（2003年4、7、10月）

	【生徒A】			【生徒B】		
	4月	7月	10月	4月	7月	10月
①内容（量）	やや多い	ちょうどよい	ちょうどよい	多すぎる	ちょうどよい	ちょうどよい
②内容（質）	やや難しい	ちょうどよい	ちょうどよい	やや難しい	ちょうどよい	ちょうどよい
③内容（理解度）	おおかたわかった	よくわかる	よくわかる	おおかたわかった	よくわかる	よくわかる
④辞書活用	どちらでもない	やや得意	やや得意	どちらでもない	やや得意	得意
⑤もっとも嫌い（苦手）	主題：わからないから	主題：難しいから	なし	読むこと：文が長い、難しそう	主題：何を最も言いたいのか分からない時がある	特になし
⑥もっとも得意（好き）	読むこと：読んだだけだから	意味調べ：知識が増えるから	書く：自分の思いを自由に書けるから ・難読漢字：漢字が得意だから	書く：自分の思っていることは書きやすい	書く：意見を書くのが面白い 意味調べ：面白くなった	書く：自分の意見を書けるから 難読漢字：漢字が得意
⑦気持ち・変わったこと	・（1、2年の時のように）本が読めたかった	・知らないことがわかるようになっておもしろい	あの少ししかない中にどうやって自分の思いや考えを伝わりやすく要約できるか	難しそう	読むことが以前ほど嫌でなくなった	読むことが速くなった 関心をもつようになった

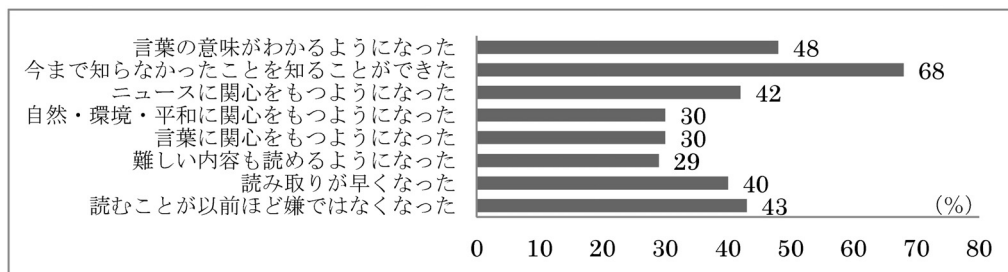


○毎朝続けてみて、変わったと思うこと（2003年4, 7, 10月）



認知心理学では、「人はもともと自分の能力を高めたり問題を解決しようという意欲を持っており、本来、内発的な動機づけによって仕事や勉強に励もうとする。したがって学習意欲を高め、それを維持させるためには、課題の難易度が適切でなければならない。なぜなら、課題がやさしすぎると生徒は飽きてしまうし、難しすぎると途中で挫折してしまうから」（米国学術研究推進会議；2002）とある。生徒に対する意識調査で、その難易度も確認しながら進めてきた。4月では80%の生徒が「難しい」もしくは「やや難しい」と答えていたが、7月には32%に減少している。そのうち「難しい」と4月に答えていた13%の生徒も7月では5%に減少している。特に配慮すべきは、その5%の生徒に対してであるが、「難しい」と答えていても、苦手なわけではなくしっかりと読み取っていたり、主体的な読みに変わっている生徒もいた。

○毎朝続けてみて、変わったと思うこと（2003年10月）＊複数回答



○「コラムの読み取り」の学習活動で1番得意なこと（2003年10月）

1位 辞書で調べる（22人）…本当は違う意味だったことがわかる・辞書を引いてその意味を書き写すだけで頭に新しい知識が入るのでやっていて楽しい・だんだん早く引けるようになった・わからなかった語句がわかるので嬉しい・意味がわかるっておもしろい

2位 読むこと（15人）…知らなかったことを知ることができた・読んでいくと楽しい・興

味ある内容だから・早く読めるようになった・どんなことを書いているか楽しみ・新しい情報を知ることができる

〃 感想や意見・反論を書く（15人）…自分の思ったことが書ける・自分の思いを素直に書ける

○「コラムの読み取り」の学習活動で1番苦手なこと（2003年10月）

1位 感想や意見・反論を書く（30人）…苦手・どんな風に書こうか迷っているうちに時間がなくなるから・反論を書きたいけれど見つからない・文章を書くというのは難しい・嫌いではないけど、内容が難しいときはあまり書けない・文章をまとめることが苦手

2位 主題に線を引く（19人）…難しい・苦手・紛らわしくてとても難しい・読み取りができていないときがあるから

3位 意味調べ（7人）…書き写すのに時間がかかる・辞書を引くのは早くなっただけで覚えられない

○生徒の気づき（2003年～2013年）（下線部は次の学びにつながる主体的な学びの表出）

- ・まず、わからない漢字があったら辞書を引くということがよくできるようになった。普通の会話の中でも、コラムに出た言葉を使うようにもなった。あと、今まで意味を知らないで使っていた言葉や、意味を間違っていた言葉などの意味を知ることができた。いろいろな言葉があって、いろいろな意味があるので辞書を引くのがとても楽しくなった。書かれている内容が少し難しいけど、自分の好きなことが取り上げられていると、楽しい。
- ・たくさんの内容の記事を読むことによって、社会の動きやその他のいろいろなことを知ることができるので、いいなあと思う。自分は以前よりも新聞を読むようになった。それまではテレビとスポーツの記事以外は読まなかったけれど、今ではすべての記事に目を通すようになった。そして書くことも速くなったような気がする。あの短い時間でも、びっしりと感想を書くことができるし、（マスが）あれだけではまだ足りないと思うことがたまにある。でも、それもまた朝学習のいいところであると自分は考える。あの少ししかないマスに、どうやって自分の思いや考えを伝わりやすく要約できるかということが隠れていると思う。
- ・読み続けていて、本当に読み取りの力がついたと思います。「今日は○分までには終わらせよう」と思えば、もっと集中してやれるようになったし、その間に「私だったら…」と自分の意見も持てるようになりました。
- ・わからない言葉を調べていくようになり、だんだん辞書を引くのが早くなってきたと思う。最近では、何かわからない語句があったら、すぐに引くというくせがついてきた。今後苦手である感想や反論を書くことを、得意分野になるようにしたい。そのためには、もっと今よりも時間をかけてコラムを読むべきだと思う。そして、もっと辞書を引いていろいろな書き方ができるようにしたい。それに、主題を見落としていたりすることがあるので、読解力をさらにつけたいと思う。調べた語句は忘れず日常生活に役立てていきたいと思う。
- ・読み取りは以前ほど嫌じゃなくなったけど、まだやっぱり嫌だという意識もある。今まで続けていて、難しい漢字も少しは読めるようになったから、これからも真剣に続けて漢字の読みや書く力を付けていきたい。テレビのニュースや他の新聞の記事なども読んで、平和や自然環境などにも関心を持るといいなあと思います。日頃使っている言葉に気を付けて、人を傷つけないで済む言葉、人が元氣になれる言葉を遣って、みんなを励ますことのできるよ

うになりたいです。

- ・ コラムののっていた話題が、テレビニュースなどで流れると、耳を傾けて聞くようになりました。
- ・ 4月、文をみても読む気にはなりませんでした（テストのときなども）。でも、今は長文をみても以前より読んでみようという気になれるようになったと思います。そして、主題を見つけれられるようになったと思います。意味調べでは、毎日することで（辞書を）引くのが速くなってきていると思います。最後に書く感想は、読み取りがきちんとできていないと書けないと思います。今はすらすら書けます。
- ・ 初めは時間が足りずに最後まで書くことができなかったけど、最近は時間が余って漢字練習までできるようになりました。また、書く力もついたと思います。テストや授業で200字以内で感想を書きなさいという問題があったら、どんどん書けるようになりました。また、自分自身の事や周りの事につなげて書けるようになったと思います。
- ・ 始めた頃は「唯一の読書時間が勉強だなんて」と思っていた。でも、コラムの内容は、今の日本・世界について書いてあり、ニュースを見ようとしないうちに自分にとっては好都合でした。そして、今までは「ただ知っているだけ」の事件や問題が感想を書くことによって「考えた」という何気ない満足感があります。タイトルとかやる気満々で考えてましたね。ただ、私は読むのが遅くて感想がいっぱい書けるわけじゃない。調子がいいときとか、内容が気になるものならば、それなりに書けているんですが・・・。
- ・ はじめは時間内に終わらないで、ちゃんとできるか不安だったけど、今では時間内に終わらせられるようになりました。コラムを読んだおかげで、自分の考えをまとめて書くことが前よりかはできるようになったと思います。聞いたことのない話や、今の中高生の事件や問題などを知ることができ、自分も気をつけないといけないう、自分は何かしなきゃいけない・・・と思うようになりました。朝学習をして、読む力、書く力、考える力がつきました。

○主体的な学びになり得たのか、卒業生に質問（「コラムの読み取り学習は、高校生活に役立っていますか？」）

- ・ 役立っていると言うよりやってよかったと思うことは、評論文の読解力がついてきたことです。筆者のいいことや文の内容を客観的で適格に捉えることができるようになってきました。中学3年生時にはそれほど力が伸びていると感じなかったけれど、高校の実力考査で長くて難しい文章が出題されてもだいたい内容がつかめて自信をもって解答できるようになりました。これって「朝学習」で力がついたからかなあとその時思いました。その力は高校入試でも生かすことができました。新聞コラムを毎日読むことで読むスピードが速くなりたりしたし、ある問題や話題について、自分の意見を適格に伝わりやすいように言える（書ける）様になったような気がします。また、このような力は予習の際にも役立っています。文章を読む、わからない漢字や語句を辞書で調べる、段落分けをする、このような作業が時間をそれほどかけずに終わらせることができるのも「コラムの読み取り」を続けて、身に付けた力があるからだと思います。（2004年10月 高1，2003年度竹田中学卒業生）
- ・ （略）さて、ついこの間実力テストがありました。とんでもない点数を採ってしまいました。が、取り組み方は良かった様です。それというのは、テストの問題用紙（文章題など）に「線」を引いていたということです。これは毎朝「新聞コラム」で心に残ったところ、主題に線を引いていたからだだと思います。また、分からないことは、必ず辞書で調べるくせが



いていたので、今でもすぐに辞書を使います。1つアドバイスですが、今持っている辞書が自分の辞書なら、調べた語句に印やマークをつけるとさらによいと思います。自分がよく調べる語、覚えていない語が印の数で分かると思います（英語・古文も同）。とにかく、毎朝の「新聞コラムの読み取り」は高校生活（勉強）にかなり役立ちます。内容理解は難しいけど、しっかり読んで感想だけはぎっしり書く！ということをするるととても良いと思います。

（2004年10月 高1，2003年度竹田中学卒業生）

- 2013年3月大分大学医学部を卒業し、4月から研修医として働く（2003年度竹田中学卒業）  
先輩を「ようこそ先輩」と称し中学校へ招き、「学ぶこと」について語ってもらった。コラム読解についても話題にのぼり、聴いていた中学2年生の感想の中に以下のように出てくる。
- ・今日のお話を聞いて、私の夢に役立つ話ばかりだと思いました。先輩みたいにあきらめずに頑張ったり、誰かと競える仲になったり、とりあえず毎日コツコツ勉強していきたく思いました。「新聞コラムの読み取り」をやっていてよかったという日がくると先輩も言っていたので、それも含めて、今できることを一生懸命にして、後悔しないように頑張っていきたいです。（2012年度中学2年生）（学年通信「和」No 187/2013.3.22）

#### 4) 考察

生徒の感想からも分かるように、「読むこと」を「書くこと」に関連づけた取り組みによって、自分自身の事や周りの事につなげて書こうとしたり、コラムで知った言葉を普段からつかっていかうとする主体的な学びにつながったことが分かる。「読む」だけではなく、読んで考えたことを「書く」（「表現する」）ことによって、生徒は深く思考している。中学生にとっては、やや難しいと思われる文章を毎日読み、その文章（事象）に対する自分の意見や感想・反論を、毎日書いていけば当然、これまでの語彙力を遙かに超え、書く力、そして、何より考える力がついていく。

書くことと考えを深めることの関連について、『文章は、「書こうとすることがまとまったから書く」という場合のほかに、「まとまらない考えをまとめるために書く」ということもある。じつは、「まとめるために書く」より、もう一つ前に、いろいろのことが心に浮かんでいているようですが、それがとらえられない、何かあるようだけれど、つかめない、わからない、というときがあります。「書く」ことはそういう段階、程度から、もう役立ちます。（略）書いていますと、「書く」ということが、ふしぎに、心を一点に集めます。また一つの考えが、文字になって目に見えるものになりますと、その考えのいのちがはたらきだして、また次の考えが引き出されてきます。そして、材木の中に、きりをもみこんでいくように、深みへ深みへと、考えが伸びていきます。』（大村；2002）と述べられている。「書く」という行為が、学習者をいかに深い学びに導くか気付かされる。

「新聞コラムの読み取り」の学習を継続する中で、変えたことも1つある。当初この取り組みは、中学1，2年生では無理だと思い、中3の4月より1年間実施してきた。コラムの内容が中学生には難易度が高いことも多いからだ。しかし、3ヶ月早め、中学2年の3学期初日から始めることでより効果的であった。なぜなら、中学2年の2学期は、中学校生活に慣れ目標を見失ったかのように過ごしている生徒たちが増える。そこで、2年3学期1月から「新聞コラムの読み取り」を始めると、それまで目標を見失っていたかのような生徒たちが、がらりと変わり驚くほど意欲的に取り組む。中学3年生になれば放っておいても「もっと頑張らなくて」と学習をはじめ様々な活動に意欲的になる。それが、3ヶ月早めたことで、2年の3学期

から意欲的になり、懸命に取り組む。3年生にならずとも質の高い、やや難解な学習を生徒は求めていた。そこで朝学習では、2年の1月から3年の12月まで1年間「新聞コラム」の読み取りを、中学3年の1, 2月は、入試対策に当てるようにした。新聞コラムを毎日読むことで、政治や社会情勢だけでなく、文化や季節の移り変わり等にふれることもでき、感性も高まっていった。前述の意識調査結果にあったように3ヶ月で生徒の意識はすでに変容が見られる。中学3年生になったころには、「読むこと」だけでなく「書くこと」にもすでに抵抗がなくなり、3年の1学期には、毎日の生活ノート（1日の振り返りノート）の内容が深まっていたり、積極的に「新聞投稿」を試みたりと、「深く考えて書くこと」を日常の生活につなげている生徒が増えた。また、生徒の感想や反論を学年通信（「夢へむかってひたすら前へ」No.617ほか多数）等で紹介することにより、生徒たちの、社会の様々な事象への関心の高さや、感性の鋭さを、他教科の先生方や保護者の方たちに知らせることができ、「力（読解力・表現力・思考力等）」を着実につけていることが認められた。そこで、「毎朝20分間」、「A4版一枚の学習プリントの形式（学習活動①～⑦）」、「必ず認め、誉めるコメントを書いて返却（○を付けただけ、ハンコをついただけで返すことは絶対しない。訂正・指導は小さく）」、「プリントは必ず自分のファイルに綴じさせる」というこのスタイルを、11年間変えることなく続けることができた。毎日の準備、添削はたいへんではあるが、生徒が主体的に変容していくことが実感でき、継続することができた。何より、毎日、生徒の思いや考え、感性に触れ、考えさせられたりはっと気づかされたりする面白さを味わうことができた。また、この実践は、竹田市の国語教育委員会にも認められ、他校の先生も取り組むようになっていった。朝学習、週末課題等、実施の仕方はまちまちであったが、学びの成果が表れたことを共有していった。

認知科学では、『文章の読解力の正体は、「ことばの知識」や「文法の知識」、さらに「文章構成や段落の知識」よりも、もっともっと根本的なところにある、ということである。つまり、与えられた状況に対し、受け身でそれをまるのみするのでなく、「どうしてそうなのか。どうして他の○○ではダメか。なぜ、そうならざるをえないのか？」という事態の必然性に対する関心をもつことこそが、「読解」の基本であり、「おぼえること」の本質だということである。（略）成績の振るわない原因が「読解力」にある、というよりも、すべての原因が「理解への思考－わからそうとするはたらき」にあり、それが「読解力」にも大きな差をつけている。』

（佐伯；2004）とある。朝学習の「コラムの読み取り」を「書くこと」に関連づけただけで満足せずに、生徒一人ひとりに、「わかりたい」と関心をもたせ、自ら追究していく授業につなげていかななくてはならないと考え、実践研究を継続していった。

## 2 「読むこと」を「話すこと」「聞くこと」に関連づけた実践

～「これがわたしの関心事」新聞コラムを読んで～

（2003年6月の実践より）

### 1) 研究の目的

2003年度4月、竹田中学校は近隣の中学校と統合したため、統合後間もない生徒たちが、互いをもっとよく知るために、新聞コラムの中から選んだ自分の「関心事」を伝え合う。また、自信をもって伝え合うために学習のてびきや言語活動を工夫し、選んだ題材について「もっと知りたい。どうしてそうなのか。なぜ、そうならざるをえないのか？」と追究することによって、学びの成果を実感し、主体的な学びにつながると考えた。

## 2) 研究の内容

4月に統合したため、互いをもっとよく知るために、自分の「関心事」を伝え合う学習を6月上旬に仕組んだ。これまで読んできた「新聞コラム」の中で一番心に残っているものを選び、調べ、意見発表することによって自分の思いを堂々と伝えたり、友達の思いを自分の考えと比較しながら聞いたりすることを目標に掲げた授業である。どのような話題かは、すでにクラス全員が読みファイルに綴じているため、友達の発表も関心を持ち、自分の考えと比較しながら聞くことができるはずである。

これまでに読んだ「新聞コラム」から1つを選ぶため、「もっと知りたい」「もっと考えたい」という思いを引き出しやすく、本や新聞・インターネットで詳しく調べたり、体験を交えたり、観察したり、家族と話したりしながら意見文を完成させていった。その際、どの生徒も安心して取り組めるよう学習の順序を示し、自分の考えを整理するための「学習のてびき」(図3)を用いることによって、説得力のある意見文が書けると考えた。伝え合いの場では、聞き取ったこと(感想・意見・反論)を発表するという活動を試みることによって、聞き手もしっかりと注意深く聞き取ろうとし、また、その活動は、意見発表をした友達を認める場となり得ると考えた。聞き取りの苦手な生徒は、普段、ぼんやりと聞きメモを取ろうとしても何を書けばよいのかわからないことが多い。そこで今回は、しっかりと聞きとらせる手だてとして、観点を明らかにした「聞き取りカード」を持たせた。これをもとに感想発表していくため、人前で話すことが苦手な生徒も自信を持って話すことができ、具体的に発表できるため、聞き手にもわかりやすいものになった。聞き取りカードに書き込むことで、目的を持って正確に聞き取ろうと努力する姿につながった。学校が統合して間もないため、じっくりと知り合うことのできていない生徒たちにとっては、友達がどんなことに関心を抱いているかを知ることができた学習活動である。感想発表をしたり、学習終了後、聞き取りカードを発表者それぞれに渡したりすることによって、一人ひとりが達成感を実感することもできたと考える。最も伝えたいことは何なのか聞き取ろうとしていたことが、学習後の振り返りカードからも明らかになった。それぞれの発表の際には数人が主に共感したことを述べたが、Aだけが友達の発表に反論を述べた。その際、発表者にはさらに調べて帰りのスピーチの時に発表するように伝え、Aのおかげでさらに学びが深まったことを確認している(授業記録より)。

本授業は、市の教育課程研究協議会国語部会の提案授業の為、他校の国語科教師が参観した。その感想の一部は以下の通りである。

- ・意見文に出てくる言葉に驚いた。語彙が豊富。中学3年でこんな言葉を知っているのだと驚かされた。 ・磨かれた文章である。
- ・聞き取りメモもきちんととっている。感想もぎっしり書いているし、書き終わっていないくても考えてどんどん言おうとしている。
- ・あれだけ書いてあれだけ読めれば話すこともすごいはずです。

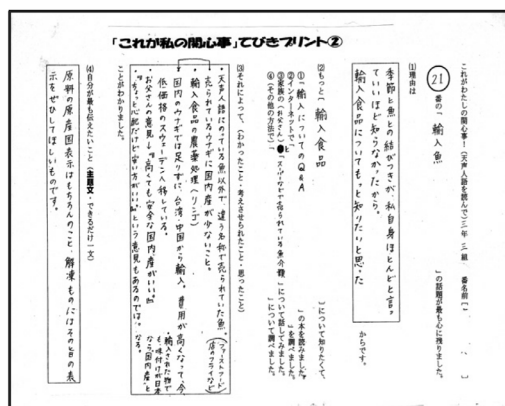


図3 学習のてびき

学習後の生徒の振り返りには「今日の国語の研究授業は、とても緊張しました。でも、私の読んだ作文に友達がすかさず感想を言ってくれたのは、とてもうれしくなりました。」と書かれていた。認め合う場を設定したことによって、学習の成果がすぐに実感でき、生き生きと語り合うことができた。なお、生徒たちの学習の様子や感想、参観の先生方の感想を学年通信（2003年度学年通信「一期一会」No.23／2003. 6. 5）に掲載することで、保護者にも学校統合後の生徒の学習の様子、学習に対する前向きな気持ち等を伝えることができた。

### 3）成果と課題

生徒は、「学習のてびき」により学習の道筋がわかり、主体的に表現活動につなげることができていた。稿者が準備した「てびき」は、やらされる学習ではなく、生徒が見通しをもって自らすすんで取り組める学習に導くものである。「てびき」や「聞き取りカード」等がなくても、自分で「わからなさ」に気づき、関心をもち、わかろうと調べたり、考えたりし、友達と対話しながら理解を深めていけるよう、学び方を示したものである。

認識というのは、実は内的対話で「あるものを読んだり、聞いたりしたとき、やつ、おかしいぞ、こんなことは考えられないのかと、自分の心の中で問いかけてみる。やはりそうだったなというふうに心の中で対話が行ったり来たりする。そうしたときに、われわれは認識を高めることができる」（佐伯；2003）とある。今後も朝学習や国語の授業で生徒自身が内的対話を進め、わかろうとし、そのわかったこと（わかろうとしていること）を友達と伝え合うことで、学びの成果を実感させ、主体的な学びを培っていききたい。

### 3 「読むこと」を「書くこと」に関連づけた実践

～科学教材を読み解き、コラムを書く学習活動を通して～

\* 2008年10月の実践

#### 1）研究の目的

日々の生活の中で、疑問に思ったことを「むずかしくてわからないから自分には関係ない」という思いの生徒が多い。そこで、生徒が自ら設定した課題について、科学教材を読み取り、追究し、解決することで、ことばの機能（認識・伝達・思考・創造）や役割を自覚させていきたいと考えた。「わからなさこそ自分に必要」という思いが、今後、言語生活を送る中で、目的を持って主体的に読み、自分の考えや表現に生かすことができる学習者に育てることができると考えた。

#### 2）研究の内容

○単元名 「宇宙の謎」に迫る ～「Newton」を読み解こう～

○単元設定の理由

- ①学習者の実態・・・授業に臨む姿勢は、大変まじめで、これまでの調べ学習でも意欲的に取り組んでいたが、調べたことを自分の言葉として解釈できていない生徒もいた。語彙不足、適切な言葉の使い方が苦手であることは日常の言語生活の中でも気づくことである。また、説明的文章を読むことについて、難解語句が多く苦手だと答える生徒が8割（4月調査）いた。本校1，2年生が、朝読書に取り組んでいる20分間に、3年生は新聞のコラムを読み、意味調べをし、感想・意見を書く活動を続けている。毎日違った内容で適当な分量であるため、読み取ることに対して、次第に抵抗がなくなっている。しかし、まだまだ与えられたものを読むことに満足しており、わからないことや疑



問に思ったことを追究していく態度にはつながっていない。

- ②学習材の価値・・・「宇宙を見渡す目」（光村図書3年）は、筆者の探求心やすばる望遠鏡に対する期待が冷静であるだけになおさら、学習者の好奇心をかき立てる。理解するのに少々難しい部分や聞き慣れない専門用語などもあるが、逆にそこから新たな疑問や課題を発見しやすい学習材である。また、今回調べ学習に使う「Newton」は、図や写真、さまざまなデータが詳細に掲載されており、「連続型テキストに書かれていることの根拠となっている非連続型テキストの情報の読み取り」もしくは、「非連続型テキストの情報に基づいた連続型テキストの情報の読み取り」が必要となる。ここでいう「読み取り」は、情報の取り出しと解釈との両方を含み、テキストの情報の解釈に依拠して、自らの考えを述べることのできる学習材である。

- ③指導の重点・工夫・・・指導にあたって工夫した点は、本単元に入る前にミニ単位としてコラムの構成や特徴を捉える学習を実施（図4）。本単元では、まず導入（新聞記事・DVD視聴）で興味・関心を持たせ、次に、学習者が単元の学習をどのように進めればよいか理解し、自ずと課題を見つけたり、「Newton」を活用して追究していったりすることができるよう、学習のてびきを工夫した。日常化した辞書の活用とともに

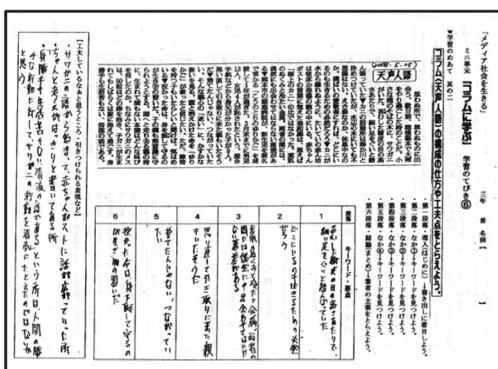


図4 ミニ単位 学習の手引き  
（コラムの形式や特徴を学ぶ）

に、調べたことをミニ単位「コラムに学ぶ」で学習した「コラム」の形式に文章化することで、より正確に読み取らせていきたい。さらに、朝読書でオリジナル天声人語として毎朝配布し、感想を綴らせることで、学びの成果を実感させる手だてとしたい。

#### ○単元の目標

##### 【言語能力に関わる目標】

目的を持って主体的に読み、自分の考えや表現に生かすことができる。

##### 【言語生活に関わる目標】

ことばを選びよく考えて使おうとしたり、よく考えてことばを受け止めたりできる。

- ・ 関心・意欲・態度…主体的に読み取ることによって、課題を解決しようとする態度
- ・ 話す・聞く力……………必要な情報を的確に聞き取り、要点をとらえてメモをする力
- ・ 書く力……………論点を明確にして、文章の内容を整理して書く力
- ・ 読む力……………要点をつかみ、稿者の考えを支えている根拠や事実をとらえる力  
客観的な事実に基づいて説明されている事柄に対し自分の意見をもつ力
- ・ 言語事項……………稿者が使っている用語の意味を文脈の中で正しくとらえる力

#### ○単元的展開の実際（6時間）

- ①朝学習で関連記事『110億年前の銀河・すばる望遠鏡で観測』（日本経済新聞・2007年12月19日夕刊）を読み関心をもつ。 【導 入】

- ②ミニ単位「コラムに学ぶ」で、コラムの特徴を学ぶ。



③「宇宙ロマンすばる」(NHK『プロジェクトX』)のDVD視聴。【第一次】

④「宇宙を見渡す目」を読み、自分の追究課題(「宇宙の謎」)を見つける。【第二次】

- ・ビックバンの大爆発について
- ・「光年」とはということだろう
- ・人類の宇宙に対しての考え方
- ・惑星系の形成される過程
- ・星
- ・星座について(名前・由来・見える時期)
- ・「宇宙の果て」はあるのか
- ・「恒星」とは何だろう
- ・「すばる」に秘められた無限の可能性について
- ・「銀河」とは何だろう
- ・ブラックホールについて
- ・「膨張する宇宙」という考え方について
- ・天の川銀河系について
- ・流れ星について
- ・アンドロメダ銀河について
- ・宇宙人はいるの?
- ・宇宙を見渡す望遠鏡(天文台の仕組み)について 等

⑤「Newton」を使って、「宇宙の謎」に迫る。【第三次】

活用した「Newton」は、専門用語も多く、宇宙に関心の低い生徒にとっては、難解な学習だと予想された。しかし、導入で宇宙に関心を持つことができ、学習のてびき①②の活用によって、スムーズに各自が課題を設定した。また、難解であることを承知で立ち向かい、根気よく調べ、深く考えながら、あるいは対話しながら少しずつ理解していくことができていた。調べていく過程でぶつかるさらなる疑問点をも諦めず、さらに読み解いていく、こういう学習経験こそがことば自覚を高めることであり、その後の言語生活の糧になるはずである。学習のてびき③④(図5, 6)にそって、自分の課題についてテキストを読み取り(学習の必然性を持った転化)、追究することで、非連続型テキストの効果を

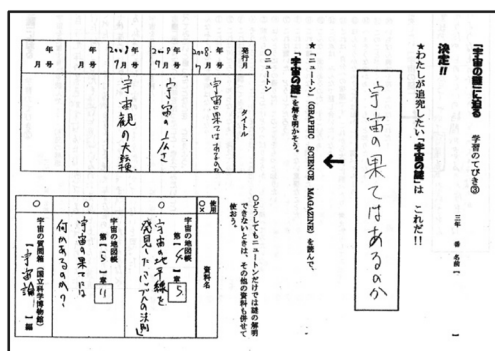


図5 学習の手引き③(調べる手だてを確認)

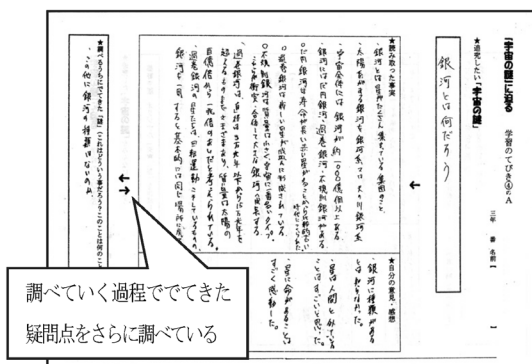


図6 学習の手引④(追究過程)

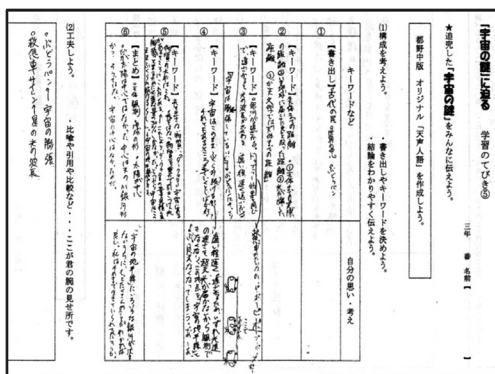


図7 学習の手引き⑤  
(コラムを書くための構成メモ・工夫点)

理解し、ことばの機能や役割が自覚できたと考える。

⑥調べたことは、毎朝読んでいる「コラム」の形式にまとめる。

小林は「生徒の国語力を向上させるに当たっては、話や文章を理解する力を育成すると同時に、その話や文章に見られる表現法を見て取り、生徒自身の表現力として転移させる学び方をすることも有効である」と述べている（小林；1984）。生徒たちは、まず、学習のてびき⑤「構成メモ」（図7）を作成し、次にコラムを書いていった（事前のミニ単元でコラムの構成等は学習済み）。書き上げたコラムは、技術科の情報の授業でパソコン入力し完成させた。できあがった「都野中版オリジナル天声人語」は、毎朝の朝学習の時間に1枚ずつ配布し、読み、意見や感想を書いていった。ファイルに綴じ、廊下に掲示すると、自分の作成したコラムに友達がどんな感想を書いたのかを楽しみに読んでいた。相互評価によって探究した成果を実感させ、さらなる主体的な読みに繋げていった。

○生徒の作成したコラム（下線部はコラムの特徴「異質性と共に共通性を含む」をふまえた表現）

- ・みなさんは、「スバル」というものがなんだか分かるだろうか。スバルとは小平さんたちが造った大望遠鏡につけられた名前だということはみんなもよく知っているはずだ。けれど、その意味、何のことだか分からないと思う。▼スバルというのはプレアデス星団の日本古来の呼び方なのだ。肉眼では六個の星が見えるだけなのだが、実際には、百個以上の星が集まっているという。なぜこの「スバル」が大望遠鏡の名前に選ばれたのだろうか。▼ハワイのマウナケア山に建設が始まった千九百九十一年に、大望遠鏡の愛称の公募が行われた。その際、三千五百通の応募があり、その中で選ばれた一通がこの「スバル」というわけである。▼清少納言の随筆「枕草子」（普段はあまり借りて読んだりはしないのだが・・・）を開いてみると、「星はすばる、ひこぼし、宵の明星、流れ星。尾がなければもっとよいのに。」とある。つまり、あの清少納言も「あはれ（趣がある）」と絶賛の星なのである。▼スバルの日本語のもともとの意味は、「集まってひとつになる」という。スバルを双眼鏡で観察すると、青白い星が多いことが分かるという。これは、スバルが比較的若くて最近できた星団ということらしい。スバルが生まれたのは、約六千万年前だと考えられており、太陽が生まれたのが五十億年前だからそれと比べると大分若い星だということがよく分かる。▼このように、あまり知られていない「スバル」と言う星団は「枕草子」に出てきたり、世界一の望遠鏡の名前にまで使われていたりする本当は、とても興味深い星団だったのだ。たまには星空を見上げてみるのも面白いかな。（2008年度 中3年男子）
- ・古代の民は、自分たちのいる場所が世界の中心だと考えていた。彼らはその時、ぶどうパンという食べ物が焼くと膨らむということを知っていたらどうか。▼現在の地球から天体までの距離は、「光が旅した距離」とされている。他にも測り方がいくつか考えられたが、この測り方が一番有効だったからである。▼ある時、なんと光の波長が変わっていた。これは、救急車がサイレンを鳴らしながら通り過ぎていくとき、自分の後方にある時と前方にあるときで音が変わって聴こえるドップラー効果というものと同一現象だった。そして銀河は遠ざかっているということを発見した。これは驚きだ。しかも、遠いものほど、早く遠ざかっていくのである。このことから、宇宙は膨張しているとい

うことが考えられた。まるで焼くと膨らむぶどうパンのようだ。ちなみに、一つ一つのぶどうの粒は銀河で、生地は宇宙である。▼研究者は、宇宙はこのまま膨らみ続けるのか、それとも、あるところまで行くと止ばんでいくのかという二つの考えを持った。研究すると、次のことが判明した。▼宇宙にはその大半を占めている光を出さない物質、「ダークマター」がある。これは、光を放つ物質を重力で引きつけるという特性があり、光のあるところにこれがあるとわかった。この情報から物質の量を見積もってみると宇宙が縮むことはほとんどの確率で無いという結果が出た。銀河は遠いほど速く遠くなっていくため、そのうち光速を超えて、遠い銀河は見えなくなってしまう。それを「宇宙の地平線に沈む」とすると、私が死ぬまでに確認できる銀河はいくつだろう。少しでも多くのことがわかってほしい。(2008年度 中3女子)

○生徒作成のコラムを読んで(理科教員から生徒へのコメントの一部)

- ・No.42「銀河」について調べた君へ・・・とても共感できる文章です。特に、星や銀河を人の生き方と照らし合わせて表現しているところはさすが。先生も星々を見て、夢と勇気をもらうことが良くあります。特に冬の星は1年でいちばん輝いて見えますね。今年の冬も寒さに負けず、勇気をもらうために星を眺めてみようと思う。
- ・No.41「すばる」を調べた君へ・・・とてもステキな文章だと思います。星の美しさを感じることでできる心こそが本当に美しいことだと思います。特に、枕草子のくだりは先生も好きです。現代人より、昔の人の方が心が美しかったのかな。負けれないね。

○生徒の振り返り(下線部は主体的な学びにつながる表現)

- ・No.57「宇宙の果て」の筆者・・・「宇宙に果てはあるのか」ということについて調べていて、いろんなことがわかったけれど、わからないことはもっと増えた。調べなければならぬことが多すぎて、本当に難しかった。書いてある一文一文にわからないことが多すぎてどういう意味なのか一回読んだだけではわからなかった。辞書は手放せなかった。しかし、調べることは多かったが、どんどんわかっていく・・・それが楽しかった。
- ・No.58「星の数・形」の筆者・・・宇宙のことについては、小学校の時から興味があつて、図鑑を見たり、夜空を眺めたりしていたから、今回調べるのはとても楽しかった。調べていて、僕は太陽が一番大きい星だと思っていたけれど、さらに何倍も大きい星がこの宇宙に存在することがわかって驚かされた。皆が書いた「コラム」からも、初めて知ることばかりが書かれてあつて、たくさん勉強になったと思う。謎からは、また、謎が生まれてきて悩むけど、そこがおもしろいところだなと思った。
- ・No.60「ビックバン」の筆者・・・僕は、「ニュートン」を読んで、いろいろ調べたけれど、「ビックバン」を調べていくのは、とても楽しかったです。絵や図の説明があつたのでわかりやすかったです。みんなは「インフレーション」があること自体知らなかったと書いてあつたけれど、みんなが知らないことを調べて、知ることができ楽しかったです。また、違うことを調べたいと思いました。自分が調べた「ビックバン」と「インフレーション」のことはずっと忘れないと思います。
- ・No.56「天の河銀河系」の筆者・・・最初、ニュートンで調べても、難しくてぜんぜん知らない言葉とかあつて大変でした。けれど、わからないことをばを調べたり、次々にニュートンを読んでいろんなものを調べたりすると、どんどん星のことや宇宙のことが

わかり、興味が持てました。ひとつ調べてみるとまた、わからないことができ・・・その繰り返しだったけれど、いろいろなことを知ることができました。本当に宇宙は不思議だと思いました。

- ・ No.54「惑星」の筆者・・・ 「宇宙」というだけでたくさんの資料があり、何を課題にしようか迷った。当初の課題とは、違うものになってしまったけれど、この課題にして良かったと感じた。考え、文にしていくなかで、いっそうこの問題について興味がわいた。私が生きているうちに答えを見ることは難しいと思うけれど、これからの科学に期待したい、と思った。(国語科通信 No17 2008.10.2)

### 3) 成果と課題

コラムを毎日読み、コラムの構成の仕方を学習したため、異質性と共に共通性を含んだ題材を取り上げるなど、コラムの特徴をとらえ文章を書いていた生徒も多くいた。また、学習のてびきの工夫によって、生徒自身がどのように学習を進めればよいか理解し、課題設定や調べ学習、また、新たに出てきた疑問点の追究まで、主体的・意欲的に行なうことができた。調べたことを、より適切な表現を求めて「ことば」を選び、内的対話をしながら、書くことによって考えをまとめることができた学習活動であった。ただし、「Newton」を使って課題を追究していく学習活動が難解だった生徒もいた。テキストの選定と個々の読みの確立が課題となる。

## Ⅲ 考察

目の前の子どもたちに、「読解力」をつけたいと試行錯誤しながら始めた学習活動であったが、懸命に取り組む子どもたちの姿、子どもたちの書く毎日の文章に励まされ、新聞コラムを活用した学習を(教頭になってもなお)11年間続けてきた。生徒たちは、毎日、眠くても少々機嫌が悪くても、朝は必ず新聞コラム(もしくは新聞記事)を読み、意味調べをし、タイトルをつけ、主題をみつけ、感想・反論を1年間書き続けた。「読解力」の向上を目的としていたが、「書くこと」で思考し、また、読み直し考えをまとめ(書けない時もとにかく書き始め)、110字程度に表現していった。わかっているつもりでも、しっかりと辞書を引き意味を確かめ、正しい日本語のつかい手となり、そのことが、また、深い「読解」「表現」「思考」につながっていったと考える。朝学習と国語科授業で培った力を構造図を図8に示す。指導の工夫(学習のてびきや認め合う場の工夫等)により、「読むこと」と「書くこと」、「話すこと」と「聞くこと」が相互に作用し、相互作用することで思考が一層深まり、「読解(理解)力」「思考力」「表現力」がついていくことを表している。また、それを生徒自身が学びの成果として実感することで主体的な(学ぼうとする意欲を持ち、粘り強く学び、自ら進んで考え、言語生活を豊かにする)学びをつくる。さらに、主体的な学

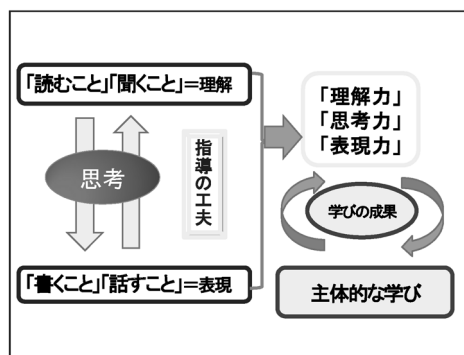


図8

びが次の学びにつながり、学びの成果を実感しながら、「読解力」「思考力」「表現力」をつけていくというイメージを示したものである(なお「読むこと」だけでなく「聞くこと」も含め、図では読解も含めた「理解」と表記する)。



新聞コラムの読解学習の取り組みが、竹田市内の中学校に広がったこと、また、2年生3学期から始めるようになり、3年生のスタート時までに着々と「読解力」「思考力」「表現力」をつけていったことを先に述べたが、その成果は中3の全国学力学習状況調査結果からも伺える。A問題（知識）も県・全国より竹田市は正答率が高いが、特にB問題（活用）に成果が顕著に表れている。

○国語の文章で書く問題を諦めず最後まで書こうと努力した。

2013年（平成25年）	86.1（竹田市）	73.2（大分県）	73.0（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

2014年（平成26年）	78.7（竹田市）	69.9（大分県）	70.4（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

2015年（平成27年）	82.6（竹田市）	77.0（大分県）	76.4（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

○国語 B（活用）問題調査結果 <正答率>

2013年（平成25年）	71.6（竹田市）	66.7（大分県）	67.4（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

2014年（平成26年）	56.4（竹田市）	50.2（大分県）	51.0（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

2015年（平成27年）	67.6（竹田市）	65.6（大分県）	65.8（全国）
--------------	-----------	-----------	----------

#### IV おわりに

「中学校において形成される国語学力（聞く力、話表力、文章表現力、読む力⇔語彙力、文法力、発音力、文字力、表記力）は、生徒たちが社会人として活躍する生涯を通じてはたらくにつづける。中学校においてめざす国語学力は、聞く力、話表力（討議力）、こまめに書く力、読み抜く力（読破力）など、いずれも生涯を通じていきいきとはたらくものばかりである。」

（野地；1984）とある。そうであれば、中学校の国語科教員は、その責任を担って、目の前の生徒の「生涯を通じていきいきとはたらくもの」を育て、学びの成果を実感させ、自信をもたせ、社会へと送るべきである。

子どもたちが自立し、自分で考え、人と対話し、学び続けながらよりよい社会を作っていく、その基盤づくりを私たち教師は担っている。ものすごいスピードで大きな変動をしているこの時代を生きることには怖じけ付くのではなく、新たなこと、経験のないことに、挑戦できることを楽しめるような、そんな夢と希望に満ちた「人」（「子ども」も「教師」も）を引き続き育てていきたい。

#### 引用・参考文献

- ・大村はま（2002）『大村はまの日本語教室』風濤社 146－147頁
- ・小田迪夫（2016）『月刊国語教育研究No.533 新聞コラム学習の視点』日本国語教育学会 31頁
- ・小林一仁・野地潤家（1984）『国語科指導法総論』明治図書 43, 131頁
- ・佐伯胖（2003）『「学び」を問い続けて 授業改革の原点』小学館 163頁
- ・佐伯胖（2004）『「わかり方」の探究 思索と行動の原点』小学館 117－118頁
- ・J・T・ブルーアー（1997）『授業が変わる－認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』北大路書房 247頁
- ・米国学術研究推進会議（2002）『授業を変える－認知心理学のさらなる挑戦』北大路書房 60頁



# Japanese Language Classes that Promote Independent Learning ~Improving Reading Comprehension, Critical Thinking, and Expressive Ability

Sanae WATANABE

## Abstract

Aiming to promote independent learning in junior high school Japanese classes, we have been developing effective learning activities to improve reading comprehension, critical thinking, expressive ability.

Over the course of 11 years, we tried to train members of society who, by studying diligently and improving reading comprehension, critical thinking, expressive ability, realize how much they learned and independently want to continue learning.

Key Words : Independent Learning, Comprehension Reading, Critical Thinking, Expressive Ability